

<建学の精神>

「自主」：自分で考え正しく判断して行う

「素直」：謙虚な心をもって知識を身に付ける

「気魄」：強い意志で物事をなすとげる

I 目指す学校

○豊かな国際感覚を備えたグローバル人材を育成する学校

国際社会に生きる一員としての自覚と、グローバル化の進展の中で、柔軟な思考に基づいて、たくましく生き抜く人間を育成する。

○より高い目標に向かってチャレンジする学校

心身ともに健康な知力、体力を身に付け、未知なることを探究し新たな創造につながる力を備えて、自らの可能性を伸ばし、高い目標を目指して挑戦する人間を育てる。

○社会に期待される文武両道の名門校

学習や特別活動等、調和の取れた活動で得た経験を活かし、多様性を尊重し、共生社会の中で積極的に社会的役割を果たせる人間を育てる。

II 中期的目標と方策

「水滴石穿」目標を高くもち、できることから少しずつ努力を継続し、進路希望を実現させる

<目標>

- 1 備えるべき真の学力を育て、社会の有為な形成者の育成を図る。
- 2 高い志を育み、生徒の自己実現を図る。
- 3 部活動や学校行事等特別活動の活性化を図る。
- 4 規範意識を身に付けて基本的生活習慣を確立する。
- 5 各種指定校の取り組みから特色ある学校づくりを進める。
- 6 組織的な広報活動の一層の充実を図る。

<方策>

- 1 教科指導力向上及び授業改善を継続して行うとともに、これからの育成すべき生徒像を明確にした教育課程編成と新たな大学入試制度を見据えた教科指導内容の充実を図る。
- 2 3年間を見据えたキャリア教育全体計画を推進し、継続したデータ分析及び定点観測によるきめ細かな進路指導を実施し、生徒の第一志望の進路実現を図る。
- 3 部活動や行事等の特別活動において、友人、上級生、下級生との協調から連帯感や学校への帰属意識を醸成するとともに、努力することの大切さや達成感を体感させる。
- 4 あらゆる機会を通して、社会人として備えるべき常識やマナー、規範意識を身に付けさせるとともに、教育相談機能を充実させ、きめの細かい生徒理解を進める。
- 5 都教育委員会からの各種指定校の取り組みを有機的、横断的に組み合わせることで学校の特色化を進めて、生徒、保護者からの信頼を高める。
- 6 保護者・地域及び中学校等に対して、本校の特色ある教育活動を積極的に情報発信し、募集対策の充実を図る。

Ⅲ 今年度の取組目標と方策

1 学習指導

<目 標>

「英語教育研究推進校」の指定を受けた英語科はもちろん、あらゆる教員の教科指導力を向上させるとともに、生徒の自学自習の習慣を確立させる。今年度から施行される学習指導要領の内容を検討・吟味して、これからの育成すべき生徒像を明確にして教育課程の編成を進める。

<方 策>

- (1) 教科主任会議を定期的実施し、教科指導の課題を共有し解決する。
- (2) 授業時間確保に努めるとともに、生徒が落ち着いて学習に取り組むだけでなく、自宅学習の習慣を定着させる。
- (3) 国語、数学、英語の3教科での少人数指導や、習熟度別少人数編成授業等の充実から生徒の学力の定着・向上させる。
- (4) キャリア教育全体計画を踏まえて、学習指導要領の「総合的な探究の時間」を充実させ、大学入試改革に対応するため、総合型選抜制度に探究する力を育成する指導を展開する。
- (5) 生徒の探究的な態度を育成するとともに、すべての教科で言語活動を重視し、読解力を養い、生徒の思考力、判断力、表現力を育成する。
- (6) 国際理解教育の推進のために、英検やGTEC等英語の技能検定等の英語四技能の向上への取り組みを充実させるだけでなく、姉妹校提携、異文化理解等「英語教育研究推進校」の取り組みを推進する。
- (7) 日常の始業前及び放課後の補習、長期休業日中の講習を計画的、組織的に実施する。
- (8) ルーブリックを活用した管理職の授業観察を積極的に実施し、教員にフィードバックを行い、生徒の学力向上と授業満足度を高める授業改善を推進する。

2 進路指導

<目 標>

計画的に組織的な進路指導を充実させるとともに、高い志をもった生徒の進路実現を目指し、社会に有為な社会人を育成する。

<方 策>

- (1) 進路指導部主導で、第一志望の「行きたい学校」にチャレンジする組織的な指導体制を確立する。
- (2) 個別面談、三者面談を充実させ、生徒一人一人の進路希望に応じた進路指導を行う。
- (3) 「進学指導研究校アソシエイト」指定時の取り組みを継続し、迅速な客観的データ検証を基に、分析会等を実施し、課題解決に向けた教科指導の改善、指導に反映させる。
- (4) 新卒業生による合格体験座談会や同窓会の協力を得たキャリアガイダンス講座の他、大学訪問等を実施し、希望進路実現に向けた生徒の内発的動機付けを促す。
- (5) 進路指導部主導により、教科ごとに、計画的、組織的な長期休業日中の講習を実施する。夏季休業中の講習については5日間を1タームとして開講する。
- (6) 自習室及び進路指導室を放課後に開放することによって、活用・促進する。
- (7) 3年間を見据えたキャリア教育全体計画をもとに、公民としての権利と義務を自覚させ、18歳成年制度を視野に入れた指導を行う。
- (8) HR合宿、学力向上集中講座等を実施し、学習の仕方や卒業後の志望進路の決定に繋がる講演等を実施し、進路指導の充実を推し進める。
- (9) TGG（東京グローバルゲートウェイ）を系統的に活用するとともに、台湾への修学旅行、複数校合同のタイへの研修旅行、イングリッシュキャンプ、ニュージーランドへの語

学研修、次世代リーダー等海外留学の活用、東京体験スクールの受け入れ等を通じて世界で活躍できるリーダーの育成を推進する。

3 生活指導

<目 標>

健全な市民を育成するために、18歳成年制度を視野に入れて、組織的な指導体制で、責任ある社会人としての生徒の規範意識を涵養する。

<方 策>

- (1) 学校全体で、挨拶、時間厳守等社会人として通用するマナー、ルールを身に付けさせるとともにスマートフォンを適切に利用する態度を育成する。
- (2) 身に付けさせる規律・規範計画及び特別指導の指導計画を基に、生活指導を行う。
- (3) 校内美化を徹底し、教育環境整備に取り組む。
- (4) 自転車の交通ルール・マナー指導を徹底するとともに、危険回避能力を育成する。
- (5) Q-U調査や高校生の意識調査を効果的に活用して、きめ細かい生徒理解に努め教育相談機能を充実させる。
- (6) 自他の存在及び生命を尊重する態度を育成して、自殺予防対策の教育を進めるとともに、男女平等の精神に基づいて、豊かな男女の人間関係を築けるようにする。
- (7) スクールカウンセラーと連携して体罰根絶、いじめの未然防止、早期発見・対応を行う。
- (8) 公民としての権利と義務を自覚させ、主権者教育、消費者教育、租税教育等を充実させるとともに、防災教育の充実を図り、「自助」「共助」の精神を養う。
- (9) 部活動及び体育の授業を軸に、生徒の基礎体力を向上させる。

4 特別活動・部活動

<目 標>

「文化部推進校」として学校行事、部活動等の特別活動を活性化させるとともに、「国際学校間交流リーディング校」として国際理解教育を推進しグローバル人材を育てる。

<方 策>

- (1) 体育祭、文化祭、合唱祭等の学校行事への取り組みを通して各種のリーダーを育成し、自主的、主体的な活動を推進する。
- (2) 部活動指導員を活用して部活動の充実を図るとともに、部活動指導方針を明確にして、体罰や暴力的指導や行き過ぎた指導のない計画的な部活動を行う。
- (3) 部活動顧問と保護者間の連携を図るため、定期的に各部活動保護者会を実施する。
- (4) メディアリテラシー教育としてのセーフティ教室、薬物乱用防止等の指導を通して、心身共に健全な生徒の育成を図る。
- (5) 文化・スポーツ等特別推薦の充実に向けた組織的体制を構築し、「文化部推進校」の取り組みを進めて文化部の部活動を活性化させ、一芸に秀でた「知のオタク」を育てる。
- (6) オリンピック・パラリンピック教育を充実させ、そのレガシーの構築の取組によって「国際学校間交流リーディング校」として豊かな国際感覚を培う。
- (7) ニュージーランド及び台湾等の姉妹校交流等により、国際理解教育を一層充実させる。

5 募集・広報活動

<目 標>

都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、学校の特色を積極的に情報発信する。

<方 策>

- (1) ホームページの更新を随時行い、日常の教育活動をタイムリーに情報発信する。
- (2) 近隣地域との交流を積極的に行い、本校の良さや特色をPRする。

- (3) 学校要覧は特別支援学校と連携して作成し、スクールガイド等を精選する。
- (4) 学校内外における学校説明会、学校見学会、授業公開及び塾対象説明会を充実させ、応募倍率を向上させる。

6 学校経営・組織体制

<目 標>

教育施策や、都教育委員会からの各種指定校の取り組みを活用して、教職員の経営参画意識と協働意識を醸成する。

<方 策>

- (1) 国や都の「働き方改革」の推進を受け、休日の部活動指導や、長時間勤務を減らして教職員の勤務の軽減を図る。学校閉庁日は、長期休業期間中に適宜配置する。
- (2) 業務の効率化を進め、教職員の一人一人のライフ・ワーク・バランスを実現させる。
- (3) 台湾への修学旅行、タイへの研修旅行、オリンピック・パラリンピック教育及び海外姉妹校交流の充実を図り、レガシーの構築を目指して、教職員の国際感覚を培う。
- (4) 経営企画室の業務進行管理と合理化を進め、経営参画型の経営企画室として機能させる。
- (5) 教育目標及び学校経営計画実現のために、5分掌の他、3つのプロジェクトチーム（P T）（学力向上、部活動指導、グローバル人材育成）を活用して学校の課題を解決する。
- (6) 企画調整会議、職員会議等、会議時間50分以内を目標にし、業務を効率化する。
- (7) 計画的なO J T、校内研修を実施し、教員の人材育成能力及び専門性を向上させる。
- (8) タイへの研修旅行は「国際学校間交流リーディング校」として、複数校と連携して実施することで、今後の都立高校間の連携・協同の教育活動の在り方について検討する。

IV 数値目標

令和4年度の数値目標項目	平成29年度から令和3年度の数値動向	数値目標
1 卒業生の進路決定率	71→85→79→84.4→89.0	90%
2 センター試験5教科型受験者数	6→12→6→10→8	10名
3 国公立合格者	2→0→4→3→2	5名
4 早慶、GMARCH合格者数	15→20→21→25→43	50名
5 長期休業中の講座数	60→109→95→37→72	100講座
6 教科ごとの教科研修会	2→3→5→3→5	5回
7 生徒の授業満足度	48.0→56.0→57.0→75.5→81.1	85%
8 生徒の自宅学習時間	1→1→1→1→1.85	2時間
9 生徒・保護者の学校満足度	81.5→83.0→84.5→72.0→81.6	90%
10 部活動加入率	96.0→90.0→90.0→85.5→80.1	90%
11 学校説明会参加者数	3033→3034→2985→1597→1891	3000名
12 中学校への訪問数	85→85→79→未実施→140	150件
13 ホームページ1日アクセス数	1000→1100→1100→717→648	1000件
14 地域との交流	5→5→5→未実施→2	5回
15 応募倍率(推薦)	3.17→2.86→3.18→2.52→2.70	3.0倍
16 応募倍率(一般)	1.35→1.43→1.39→1.17→1.16	1.5倍
17 1クラス1日の遅刻者数	H31 2→R2 1.8→R3 0.86	1名
18 スマホ利用時間(勉強での利用除く)	R2 2→R3 2	2時間以下